

③参加者の募集と参加ルール

健やか親子 21 ホームページ内に、同メーリングリストの案内ページを設けた。円滑で、効果的な運営とトラブルの回避をするために、運営に関する「参加ルール」を作成した (http://rhino2.med.yamanashi.ac.jp/torikumi-doc/ml_guidance.html)。

C. 研究結果

2003年2月の運営開始から2009年2月現在で、累積登録者数(参加者数)は247名だった。ただし、これまでに43人がアドレス変更などによりメール配信不可能となった。職業別では保健師が最も多く、ついで医師、研究・教育職と続く。(図1)。

加入者数、累積投稿数共に一定した増加が見られる。

現在までに、運営上のトラブルは発生していない。

<2007年度運営状況>

1) 参加者数と投稿数

2007年度の新規加入者は12名であった。零年多く申し込みのある日本公衆衛生学会における自由集会での新規加入者は1名だけであり、メールによる申込者が多かった。投稿数は86通であった。

2) 投稿内容

2007年度は母乳育児に関する研究会や、災害時における保健師、助産師の活動について、健やか親子 21 ホームページの更新情報、その他母子保健に関する研究会などの情報提供などがメーリングリスト上でなされた。

<2008年度運営状況>

1) 参加者数と投稿数

2008年度の新規加入者は9名であった。ほとんどはメールによる申込者であり、メーリングリスト加入者による紹介もあった。投稿数は73通であった。

2) 投稿内容

2008年度は定期的に行われる健やか親子 21 ホームページの更新情報、母乳育児に関する研究会や、書籍の紹介、その他母子保健に関する研究会などの情報提供などがメーリングリスト上でなされた。

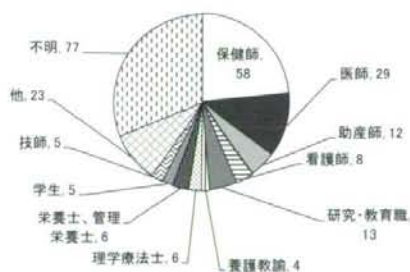
D. 考察

累積登録者数が200名を超え、参加者同士のコンスタントな情報交換がされている。本メーリングリストは、昨年度以降、母子保健関係者が健やか親子 21 を推進していく上での情報交換の場として、現在まで継続的に利用されているようである。

<問題点と課題>

更なる参加者数の増加により、より有益なメーリングリストになる可能性がある。多くの機会を利用し、幅広い参加を呼びかけたい。

図1 職業別参加者数



第 66～67 回日本公衆衛生学会学術総会 自由集会
「知ろう・語ろう・考えよう！ “一歩先行く” 健やか親子 21」
第 7～8 回 実施報告

田中 太一郎（山梨大学医学部 社会医学講座）
鈴木 孝太（山梨大学医学部 社会医学講座）
松浦 賢長（福岡県立大学看護学部 地域・国際看護学講座）
山崎 嘉久（あいち小児保健医療総合センター）
尾島 俊之（浜松医科大学医学部健康社会医学）
仲宗根 正（沖縄県中央保健所）
岡本 まさ子（山梨県峡東保健福祉事務所）
葉袋 淳子（国際医療福祉大学小田原保健医療学部老年看護学）
山縣 然太朗（山梨大学医学部 社会医学講座）

本研究班では、毎年秋に開催される日本公衆衛生学会学術総会の際に、「知ろう・語ろう・考えよう！ “一歩先行く” 健やか親子 21」と題する自由集會を開催している。

平成 19 年度の第 7 回自由集會では、研究班で発行した冊子「セレクト 2006」の中から 3 自治体の取り組みについて担当者から発表して頂き、それをもとにディスカッションを行った。発表頂いた取り組みは「産後サポーター派遣事業」、「ヘルシーティース事業」、「子どもの食育パートナーシップ事業」の 3 つであり、いずれも事業立案から評価に関する話までを聞くことができ、また、約 40 名の参加者と活発なディスカッションが行われた。

平成 20 年度の第 8 回自由集會においては、自治体で実施されている乳幼児健診のデータ等を電子化し、その電子化情報を利活用することで地域の母子保健活動に役立てているいくつかの自治体の担当者に、母子保健情報の収集・利活用状況について発表していただき、それをもとにディスカッションを行った。また、本研究班で構築している母子保健モニタリングシステム（市町村の乳幼児健康診査などで得られた情報を保健所単位や都道府県単位で解析し、市町村や親子、医療機関へ還元するシステム）についての紹介も行った。参加者は約 50 名であり、活発なディスカッションが行われた。

A. 研究目的

本研究班では、毎年秋に開催される日本公衆衛生学会学術総会の際に、「知ろう・語ろう・考えよう！ “一歩先行く” 健やか親子 21」と題する自由集會を開催している。ここではその概要について報告する。

B. 研究方法

平成 19 年度及び 20 年度は下記のような内容で自由集會を開催した。

【第 7 回】（平成 19 年度）

開催日：平成 19 年 10 月 24 日

場所：愛媛県松山市

内容：「セレクト 2006」に掲載された事業の中から 3 事業を選び、自治体担当者から発表をして頂き、自由集会参加者とともにディスカッションを行った。

また、同時に、

- ・健やか親子の中間評価後の経緯：目標値の修正など
- ・よい母子保健事業とは何かについての討論会
- ・母子保健情報の利活用についての情報提供：厚生労働科学研究の報告

を行った。

<発表事業>

1. 岩手県一関保健センター：「産後サポーター派遣事業」（発表者：沼倉聡美保健師）
2. 山形県大蔵村：「ヘルシーティース事業」（発表者：早坂八千代保健師）
3. 熊本県水俣保健所：「子どもの食育パートナーシップ事業」（発表者：下田宏子氏）

【第 8 回】（平成 20 年度）

開催日：平成 20 年 11 月 5 日

場所：福岡県福岡市

内容：乳幼児健診のデータ等を電子化し、その電子化情報を地域の母子保健活動にす

でに役立てている以下の 4 自治体の担当者に発表をして頂き、自由集会参加者とともにディスカッションを行った。

また、同時に、

- ・母子保健情報の収集・利活用の現状についての報告・紹介
- ・母子保健情報の利活用についての情報提供：厚生労働科学研究の報告

を行った。

<発表自治体>

1. 京都府長岡京市
（発表者：長岡京市役所 健康福祉部 健康推進課 課長 池田裕子氏）
2. 兵庫県神戸市
（発表者：神戸市保健福祉局 地域保健課 渡辺雅子氏）
3. 愛知県知多保健所
（発表者：愛知県知多保健所 健康支援課 中澤和美氏）
4. 愛知県吉良町
（発表者：吉良町健康福祉部福祉課 磯貝恵美氏）

C. 研究・まとめ

各回の発表内容および「まとめ」を以下に示す。

第7回

①岩手県一関保健センター：「産後サポーター派遣事業」

産後サポーター派遣事業について



岩手県一関市
一関保健センター
保健師 沼倉 聡彦

産後サポーター派遣事業とは

- 旧一関市において平成12年度に事業を開始。
- 出産後の産婦に対し産後サポーターを派遣することにより、産婦の体力回復及び育児を支援し、母子の健全な生活に資することを目的とする。



産後サポーターの利用にあたって

- 派遣期間は、利用者の出産後又は退院後1カ月までとする。
- 1回あたり3時間以内(1時間から利用可)、利用者1人につき10回までを限度とする。ただし多胎により出生した乳児を要する産婦が利用者である場合については、15回を限度とする。
- 利用料：1時間 500円

※岩手県産後サポーターに1月あたり6,000円を支払います

産後サポーター派遣の流れ



産後サポーター利用者の傾向

- 1世帯あたりの利用回数は、はさまさまである。
- 第1子よりも、第2子以降の出産時に利用していることが多い。
- 提供内容は、1位食事作り、2位買物、3位沐浴となっている。



一関市の概要

物産員の増強に位置し、計画種は県内一
(平成17年9月に7市町村合併)
総面積：約1130平方キロメートル
人口：約12万人
出生数：約950人(平成18年度)

派遣の対象者は

出産後または退院後1か月までの市内に住所を有するものであって、体質の不良等により育児及び家事に支障が生じているもの。



産後サポーターについて

～要件～
・市が主催する養成講座を終了していること
・(養成講座の受講資格)①、②いずれかに該当する方
①保健師、助産師、看護師、保育士又はヘルパー1級・2級の資格を有する方
②安産生活改善推進員又は県その他市長の認める団体が主催する産後サポーター養成講座の修了者であつて子育て経験のある方
・心身ともに健全であること

補償保険制度について

万一の事故に備えて保険に加入しています。

- サービス提供員賠償保険
- 賠償責任保険
- 依頼者賠償保険



今後の方向と課題

- 1 産後サポーター派遣事業の幅広い層への周知
- 2 発祥地区が可能な産後サポーターの確保
- 3 産後サポーターの利用から保育サポーターへの連携



一関市の母子保護システム



産後サポーターの支援内容

- 産婦の体力回復のための食事づくり及びそれに伴う買物
- 授乳、沐浴等の支援
- 育児の助言及び指導



産後サポーター登録状況

サポーター登録数 76人(H19.3.31現在)
養成講座 2日間コース(年1回)
フォローアップ研修 1日(年1回)

● 講座の開催について 岩手県
● 講座 岩手県産後サポーターについて 岩手県
● 講座 岩手県産後サポーターについて 岩手県
● 講座 「産後サポーター」の役割について 岩手県保健福祉課
● 講座 産後サポーターの役割について 岩手県保健福祉課

産後サポーター派遣の実績

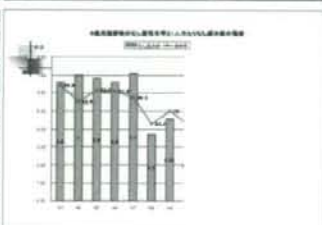
	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度
利用回数	2回	7回	4回	7回	4回	1回	6回
派遣総回	13回	40回	26回	49回	30回	1回	39回

② 山形県大蔵村：「ヘルシーティース事業」

地域ぐるみで成功できた
幼児のむし歯対策

ワースト1からベスト1へ

山形県大蔵村



歯科保健推進協議会

- メンバー：「住民代表者、保健代表者、教育委員会」
- 「関係機関代表者（保健所、歯学部、歯科診療所）」
- 「関係団体代表者（歯学協会、歯学連盟）」
- 「関係者代表者（歯学博士、歯学助産師）」

事務局：歯学部歯科科、歯学部歯学、歯学部

項目	現状	目標
3歳以下児のむし歯有病率	4.6	2.0
夕食後に甘い物を食べる割合	45%	20%
1～3歳児まで年3回以上フッ素塗布率	80%	80%

アンケート調査の結果の問題点

- おやつのみえ方
 - 時間が不規則
 - 夕食後に食べる
- フッ素の利用が少ない

各班毎に問題点を整理、発表

全体で問題点を整理、対策を決める

目標値

- 3年間で3歳児のむし歯の数を1人平均4.6本から2本にする。
- 夕食後に甘い物を食べる割合を45%から20%にする。
- 1～3歳児まで年3回以上フッ素塗布率を80%にする。

歯科保健推進協議会での検討と対策

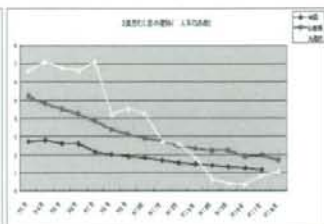
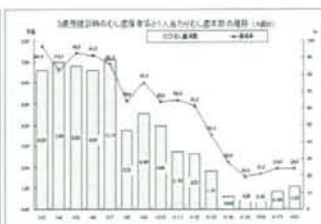
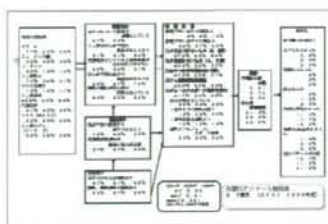
- ①むし歯の現状の目標値の設定
- ②目標値の達成のための保健優先順位の設定
- ③決定された行動に準備、実施、強化の抽出
- ④要因を把握させる為に必要なプラン作成



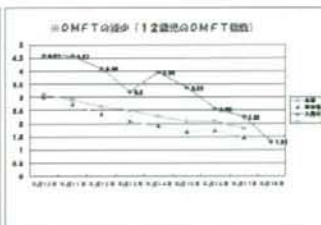
歯科健診、フッ素塗布、保健指導

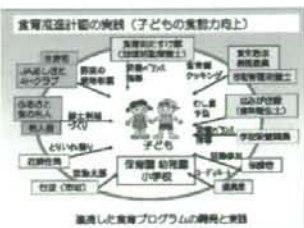
取り組みの例

食生活改善推進員の活動



- ### 住民参加のステップ
1. 住民参加を促す。
(話し合いなど)
 2. 資料を作成する。
(アンケートの配布等) (資料の作成)
 3. 活動の具体化と実施の計画。
(活動する日や場所の決定等) (実施計画の決定)
 4. 一環ですめる。
(資料の作成や配布など)
 5. フォロウアップを行う。
(活動の経過や結果の報告など)
 6. 結果を評価し、活動の改善を行う。

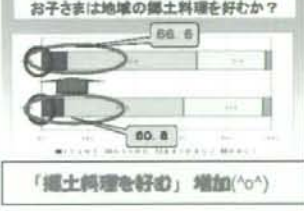
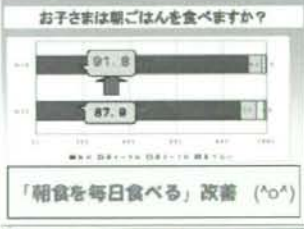


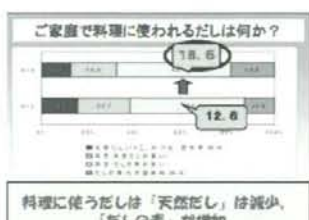
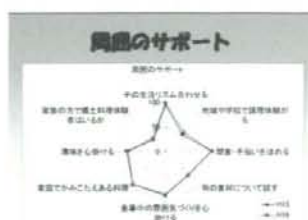


水原・芦花は子どもの食育推進計画

平成15年度から平成19年度
栄一タを比較して事業評価

子どもの食育推進計画
対象者 ①保育園・幼稚園の3歳児の保護者
②小学1・5年生の保護者





食育実践調査結果のまとめ

食育で取り組む3本柱

- ①食環境の整備
- ②関係のサポート
- ③子どもへの食育（だしのとり方を教く）

食生活目標

健康目標

○平成19年度は15年度に比べて改善していた！！



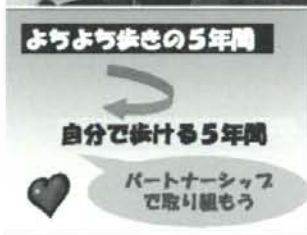
考察

確実に5年間の取り組み成果はあがった。
食生活目標や健康目標は、直接行動に移っていくが、実践が持続的に行われている。

今後の取り組み

①家庭、地域、各関係団体とのネットワークを密に行っていく
（一関係のパイプを多くしていく！）

②本年度、食育計画推進部会において第2次食育計画を策定する



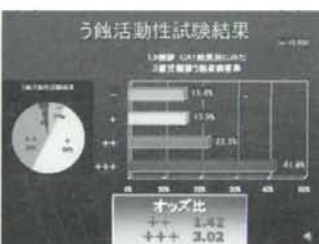
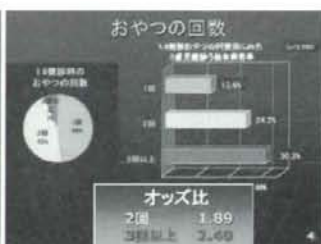
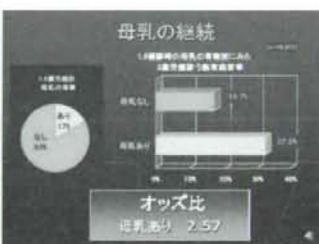
【参加者からの質問・コメント】

- ランチョンマットを家庭で使うことについて、賛否はあるか？
一幼稚園から使用しているためほとんど抵抗はない。また小学校卒業時には、必ず一人一品を作れるようにしているため、ランチョンマット効果への賛成が多い。
- 子どもの食生活の変化から親にも変化が見られるため、子どもの食育は家族に波及していくと考えられる。

<考察・まとめ>

3自治体の担当者から各事業について、具体的な取り組み内容から事業に対する評価まで、大変わかりやすく、素晴らしい発表が行われた。今後研究班として、登録された事業を評価する際、事業のプロセスを評価する必要性を感じ

た。現場で母子保健事業を実践していく担当者が、更にやる気が高まり、素晴らしい事業が行えるよう、支えとして「健やか親子21取り組みのデータベース」を充実させていきたい。今回のような発表の場をもてたことは、大変貴重であった。



【考察】

- 1歳6ヶ月での仕上げ磨きの評価が3歳児のう蝕と関連することより、生後後の歯磨きの習慣化の重要性を再認識した
- 1歳6ヶ月での母乳の継続、哺乳びんの使用がう蝕と関連することより、卒乳の時期等について1歳6ヶ月以前の指導を強化する必要がある

【考察】

- おやつ回数やおやつの時間の規則性だけでなく、就寝時間が遅くなるほど、う蝕との関連が強いことから、う蝕の抑制には低年齢児からの家庭での生活全般の規律が必要
- う蝕活動性試験の結果、ハイリスク(++++)の児は、ローリスク(++)と比較して高いオッズ比を示し、3歳児のう蝕に強く関連することより、早期にハイリスク児を把握して、重点的な指導が重要

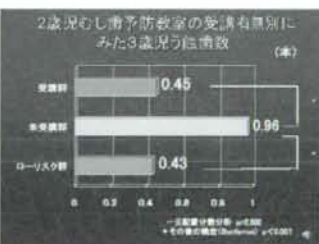
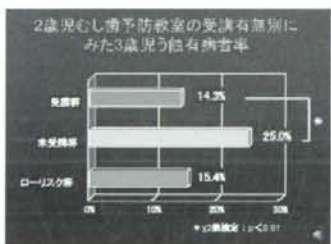
システムによる歯科健診結果の活用

- 分析結果の発表・専門家への発信
- 健診マニュアルに記載
- 検診出席医への説明

システムによる歯科健診結果の活用

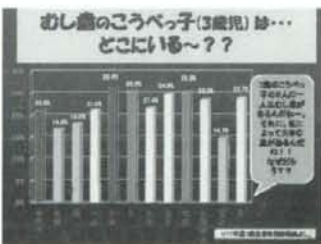
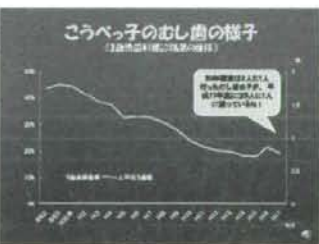
- う蝕ハイリスク児の把握と対策

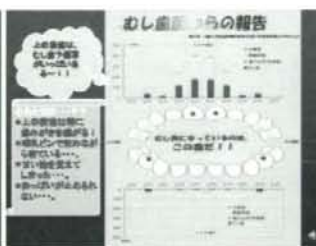
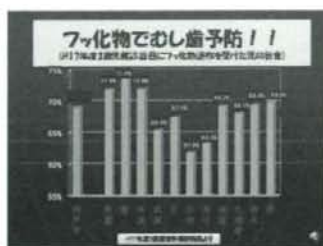
1歳6ヶ月児健診でのう蝕活動性試験結果および問診項目によりハイリスク児を把握し、2歳児むし歯予防教室へ案内



システムによる歯科健診結果の活用

- 市民への啓発
保健所ホームページ
パネル
健康教育媒体など





システムによる歯科健診結果の活用

4. 効果的な問診項目への見直し

背景：児童虐待の防止
発達障害の早期発見と支援
授乳・離乳の支援ガイド

H19年度 母子保健事業検討委員会にて問診項目について検討
H20.4. 問診票および手引きを改訂

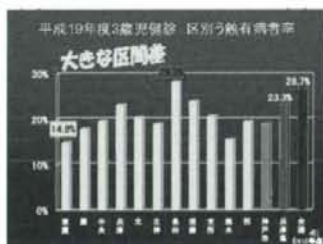
システムによる歯科健診結果の活用

う蝕リスク要因を考慮した問診項目・指導基準へ改訂

資料1：う蝕リスク要因評価シート（改訂）

12 - おやつやジュースの摂取量に留意
14 - ジュースの摂取量を減らす
17 - 3歳までの母乳の項目を追加

神戸市産乳食及び幼児食指導基準（H19.10改訂）に「母乳については12か月から18か月間とする」との記

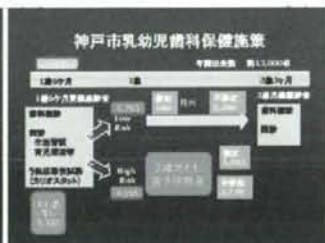
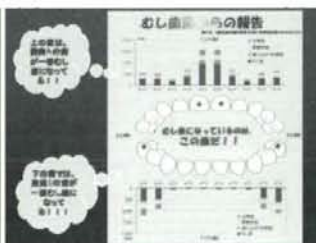


今後の課題

- 地域格差についての要因分析
経済状況・家族構成等
- 虐待の早期発見
保護者の育児感情や育児の負担感等のスクリーニング
- 発達障害等の支援における効果的な問診と保健指導の検証

広報こうべ

H18年4月1日号



③ 愛知県知多保健所

母子保健情報の利活用をめざしたシステムの検討

— 乳幼児健診の間診項目の統一に向けて —



山形 富山 大分 徳島 香川 高松 愛媛 高知 徳島 香川 高松 愛媛 高知 徳島 香川 高松 愛媛 高知

山形 富山 大分 徳島 香川 高松 愛媛 高知 徳島 香川 高松 愛媛 高知



県母子保健情報システムと分担班

愛知県母子保健調査事業専門委員会
事務局 愛知県母子保健課

調査項目
- 健診項目
- 判定区分
- 判定区分
- 判定区分

調査項目
- 健診項目
- 判定区分
- 判定区分
- 判定区分

調査項目
- 健診項目
- 判定区分
- 判定区分
- 判定区分

調査項目
- 健診項目
- 判定区分
- 判定区分
- 判定区分

試験運用で明確化された課題

- 水電算化市町村
 - 個別データ集積に作り抜ける目的課題は比較が少ない
 - 作業集積が可能 分析のための支援ツール導入が必要
- 既電算化(大規模)市町村
 - 電算システムの既設性、普及経費は大きい
 - 間診項目など多岐にわたるデータの統一
 - 母子保健情報は、登録や成果に集積しない情報?
- 原型保健所
 - 高齢乳幼児健診事業への移行の方針の再確認
 - データ分析のためのスキルアップ

分担研究 本年度の取り組み

第1回分担班会議 2008年10月19日(土)

- ・県レベル
 - 母子健診調査マニュアル専門委員会事務局会議
 - 報告項目の仕様改正
 - 母子保健情報フォーラムの開催
- ・保健所レベル
 - 個別情報収集の有用性と新しいマニュアルの普及
 - 県民に対する管内保健センターの普及形成
- ・地域レベル
 - 東海市: 市DBに蓄積されたデータ分析支援
 - 江南市: 母子保健情報DBを利用した発達課題の検証
 - 大府市、知多市、岡久比郡、古良町への個別支援
 - 個別データ集積のための保健センター支援

分担研究 本年度の進捗状況

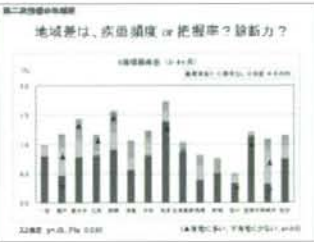
- ・県レベル
 - 報告項目の仕様改正
 - 2007年度 母子健診調査マニュアル専門委員会事務局会議
 - 2008年度 愛知県母子健診調査等専門委員会事務局会議
- ・保健所レベル
 - 具体的な健診情報(項目・集計方法)の検討
 - 市町村への見直し(国)の進捗と普及状況
- ・地域レベル
 - 2009年度~2010年度
 - 江南市: 母子保健情報DBを利用した発達課題の検証
 - 大府市、知多市、岡久比郡、古良町への個別支援
 - 市町村システム改修等の検証(必要なら普及)

愛知県母子健康診査マニュアルに基づいた乳幼児健診の評価

20年以上の経験のある事業
名古屋(名古屋市)豊田市(平塚市)以外の県内市町村が参加

第一次健診: 健診での判定結果
疾病分類(27項目) D: 問題なし・C: 要指導・B: 要観察・A1: 要対策・A2: 要対策・A3: 要指導要観察
育児・家庭環境分類(18項目) D: 問題なし・C: 要指導・B: 要観察・A: 要指導(要管理)

第二次健診: 医療機関への紹介後等の事後データ
疾病分類(27項目) 異常あり・異常なし・復舊・その他
育児・家庭環境分類(18項目) 問題あり・問題なし・復舊・その他



分担研究 本年度の取り組み

第1回分担班会議 2008年10月19日(土)

- ・県レベル
 - 母子健診調査マニュアル専門委員会事務局会議
 - 報告項目の仕様改正
 - 母子保健情報フォーラムの開催
- ・保健所レベル
 - 個別情報収集の有用性と新しいマニュアルの普及
 - 県民に対する管内保健センターの普及形成
- ・地域レベル
 - 東海市: 市DBに蓄積されたデータ分析支援
 - 江南市: 母子保健情報DBを利用した発達課題の検証
 - 大府市、知多市、岡久比郡、古良町への個別支援
 - 個別データ集積のための保健センター支援

三歳児健診・基礎情報・診療所見

・性別

市名	質問文	回答	人数
東海市	子どものおくれや発音の心配がありますか	いいえ、はい	×
		いいえ、はい	○
東海市	子どものおくれや発音の心配がありますか	いいえ、はい	○
		いいえ、はい	○
大府市	子どものおくれや発音の心配がありますか	いいえ、はい	○
		いいえ、はい	○
知多市	子どものおくれや発音の心配がありますか	いいえ、はい	○
		いいえ、はい	○
岡久比郡	子どものおくれや発音の心配がありますか	いいえ、はい	○
		いいえ、はい	○

・商気等(けいれん以外)

市名	質問文	回答	人数
東海市	子どものおくれや発音の心配がありますか	いいえ、はい	×
		いいえ、はい	○
東海市	子どものおくれや発音の心配がありますか	いいえ、はい	○
		いいえ、はい	○
大府市	子どものおくれや発音の心配がありますか	いいえ、はい	○
		いいえ、はい	○
知多市	子どものおくれや発音の心配がありますか	いいえ、はい	○
		いいえ、はい	○
岡久比郡	子どものおくれや発音の心配がありますか	いいえ、はい	○
		いいえ、はい	○

三歳児健診・問診

・ことば

市名	質問文	回答	人数
東海市	自分の名前や年が言えますか	はい	×
		はい	○
東海市	言葉のおくれや発音の心配がありますか	はい	○
		はい	○
大府市	自分の名前や年が言えますか	はい	○
		はい	○
大府市	言葉のおくれや発音の心配がありますか	はい	○
		はい	○
知多市	自分の名前や年が言えますか	はい	○
		はい	○
知多市	言葉のおくれや発音の心配がありますか	はい	○
		はい	○

・ことば

市名	質問文	回答	人数
東海市	言葉のおくれや発音の心配がありますか	いいえ、はい	×
		いいえ、はい	○
東海市	言葉のおくれや発音の心配がありますか	いいえ、はい	○
		いいえ、はい	○
大府市	ことば、発音について気になることはありますか	はい、ある	○
		はい、ある	○
知多市	ことばのおくれや発音の心配がありますか	いいえ、はい	○
		いいえ、はい	○
岡久比郡	言葉のおくれや発音の心配がありますか	いいえ、はい	○
		いいえ、はい	○

・子育ては楽しい?

市名	質問文	回答	人数
東海市	子育ては楽しいですか	楽しい、大変だけど楽しい、楽しい	×
		楽しい、大変だけど楽しい、楽しい	○
東海市	育児は楽しいですか	はい、いいえ	○
		はい、いいえ	○
大府市	育児は楽しいですか	はい、いいえ	○
		はい、いいえ	○
知多市	育児はどうですか	楽しい、大変だけど楽しい、楽しい	○
		楽しい、大変だけど楽しい、楽しい	○
岡久比郡	育児はどうですか	楽しい、大変だけど楽しい、楽しい	○
		楽しい、大変だけど楽しい、楽しい	○

三歳児健診・問診項目

共通表 (H20.7.10 調査)

項目	調査
子どもの名前や年齢が言えますか	はい
言葉のおくれや発音の心配がありますか	はい
子どものおくれや発音の心配がありますか	はい
ことば、発音について気になることはありますか	はい
子育ては楽しいですか	はい
育児は楽しいですか	はい
育児はどうですか	はい

**集積したデータをもとに
問診項目共通案を検討**

共通項目案 ※実施の進捗や実施の心算は異なりますか

実施	問診項目	計	はい	いいえ	無回答
東海中	こまごまの連絡や報告の心算はありますか	100%	11%	89%	0%
大府中	こまごまの連絡について集積したことはありますか	100%	0%	100%	0%

東海中 No.1-020
大府中 No.008

集積したデータをもとに問診項目共通案を検討

共通項目案 ※実施の進捗や実施の心算は異なりますか

実施	問診項目	計	はい	いいえ	無回答
東海中	日中おしっこ、うんちが一人でできますか	100%	80%	20%	0%
大府中	尿意の自立はできていますか	100%	88%	12%	0%

東海市：日中おしっこ、うんちがひとりでできますか

	はい		いいえ
	自分でできる	手伝えばできる	
平成9年 集団健診	46.1%	41.1%	12.8%
平成19年 個別健診	47.7%	32.4%	19.9%

*「手伝えばできる」⇒親子の関係性がみれる、親への教育的視点(健康教育)

**1歳6か月児健診-問診項目
共通案 (H20.2.19会議)**

実施	問診項目	計	はい	いいえ	無回答
東海中	おしっこ、うんちが一人でできますか	100%	80%	20%	0%
大府中	尿意の自立はできていますか	100%	88%	12%	0%

**集積したデータをもとに
問診項目共通案を検討**

共通項目案 ※実施の進捗や実施の心算は異なりますか

実施	問診項目	計	はい	いいえ	無回答
東海中	ママ、パパとの会話の楽しさや内容を話しますか	100%	87%	13%	0%
大府中	家族のある言葉を話しますか	100%	85%	15%	0%

東海中 No.1-113
大府中 No.026

**集積したデータをもとに
問診項目共通案を検討**

共通項目案 ※実施の進捗や実施の心算は異なりますか

実施	問診項目	計	はい	いいえ	無回答
大府中	習字が上手に書けるようになりますか	100%	80%	20%	0%

知多市：「はい」の回答が殆どであるため
問診項目から外した

⇒ 共通問診項目から除外

**集積したデータをもとに
問診項目共通案を検討**

共通項目案「現職」・保健師の観察項目

実施	問診項目	計	はい	いいえ	無回答
東海中	おしっこ、うんちが一人でできますか	100%	11%	89%	0%

※「はい」と回答した者全員が実施0~2回



子を虐待していると感じている人の特徴 (1歳6か月健診受診者) (平成18年4月～20年9月健診)	子を虐待していると感じている人の特徴 (3歳児健診受診者) (平成18年4月～20年9月健診)	「自分は子どもを虐待しているのではないかと 思うことはありませんか」に対する回答の変化																																							
<table border="1"> <tr> <th>望ましくない行動</th> <th>望ましくない気持ち</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・毎、父ともよく遊ばない ・子どもを罵っている時間が長い ・お祭りに行かない ・公園に子どもを連れて行かない ・子どもと一緒に外に出ることがあまりない </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・育児があまり好きでない ・育児が楽しくない ・子どもの食事を作ることに楽しくない ・子育てに困っていないと思う ・ゆっくりとした気分になれない ・ゆったりとした気分になれない </td> </tr> <tr> <th>望ましい行動</th> <th>望ましい気持ち</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・施設をよく利用する ・育児サークルに参加する </td> <td></td> </tr> </table>	望ましくない行動	望ましくない気持ち	<ul style="list-style-type: none"> ・毎、父ともよく遊ばない ・子どもを罵っている時間が長い ・お祭りに行かない ・公園に子どもを連れて行かない ・子どもと一緒に外に出ることがあまりない 	<ul style="list-style-type: none"> ・育児があまり好きでない ・育児が楽しくない ・子どもの食事を作ることに楽しくない ・子育てに困っていないと思う ・ゆっくりとした気分になれない ・ゆったりとした気分になれない 	望ましい行動	望ましい気持ち	<ul style="list-style-type: none"> ・施設をよく利用する ・育児サークルに参加する 		<table border="1"> <tr> <th>望ましくない行動</th> <th>望ましくない気持ち</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・毎、父ともよく遊ばない ・子どもを罵っている時間が長い </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・育児があまり好きでない ・育児が楽しくない ・子どもの食事を作ることに楽しくない ・子育てに困っていないと思う ・ゆっくりとした気分になれない ・ゆったりとした気分になれない ・相談相手がいらない </td> </tr> <tr> <th>望ましい行動</th> <th>望ましい気持ち</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・育児サークルに参加する ・おやつ時間をきめている </td> <td></td> </tr> </table>	望ましくない行動	望ましくない気持ち	<ul style="list-style-type: none"> ・毎、父ともよく遊ばない ・子どもを罵っている時間が長い 	<ul style="list-style-type: none"> ・育児があまり好きでない ・育児が楽しくない ・子どもの食事を作ることに楽しくない ・子育てに困っていないと思う ・ゆっくりとした気分になれない ・ゆったりとした気分になれない ・相談相手がいらない 	望ましい行動	望ましい気持ち	<ul style="list-style-type: none"> ・育児サークルに参加する ・おやつ時間をきめている 		<p>個別データの縦断分析による検討から (平成18年4月～20年9月健診) n = 164名</p> <table border="1"> <tr> <th>3か月児健診</th> <th>1歳6か月児健診</th> <th>この期間の回答</th> </tr> <tr> <td>いいえ 157名</td> <td>いいえ 142名</td> <td rowspan="2">いいえ 14名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>はい 1名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>無回答 1名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>はい 2名</td> <td>いいえ 1名</td> <td>はい 1名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>はい 1名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>無回答 5名</td> <td>いいえ 4名</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>はい 1名</td> <td></td> </tr> </table>	3か月児健診	1歳6か月児健診	この期間の回答	いいえ 157名	いいえ 142名	いいえ 14名		はい 1名		無回答 1名		はい 2名	いいえ 1名	はい 1名		はい 1名		無回答 5名	いいえ 4名			はい 1名	
望ましくない行動	望ましくない気持ち																																								
<ul style="list-style-type: none"> ・毎、父ともよく遊ばない ・子どもを罵っている時間が長い ・お祭りに行かない ・公園に子どもを連れて行かない ・子どもと一緒に外に出ることがあまりない 	<ul style="list-style-type: none"> ・育児があまり好きでない ・育児が楽しくない ・子どもの食事を作ることに楽しくない ・子育てに困っていないと思う ・ゆっくりとした気分になれない ・ゆったりとした気分になれない 																																								
望ましい行動	望ましい気持ち																																								
<ul style="list-style-type: none"> ・施設をよく利用する ・育児サークルに参加する 																																									
望ましくない行動	望ましくない気持ち																																								
<ul style="list-style-type: none"> ・毎、父ともよく遊ばない ・子どもを罵っている時間が長い 	<ul style="list-style-type: none"> ・育児があまり好きでない ・育児が楽しくない ・子どもの食事を作ることに楽しくない ・子育てに困っていないと思う ・ゆっくりとした気分になれない ・ゆったりとした気分になれない ・相談相手がいらない 																																								
望ましい行動	望ましい気持ち																																								
<ul style="list-style-type: none"> ・育児サークルに参加する ・おやつ時間をきめている 																																									
3か月児健診	1歳6か月児健診	この期間の回答																																							
いいえ 157名	いいえ 142名	いいえ 14名																																							
	はい 1名																																								
	無回答 1名																																								
はい 2名	いいえ 1名	はい 1名																																							
	はい 1名																																								
無回答 5名	いいえ 4名																																								
	はい 1名																																								

子を虐待していると感じるようになった人の特徴 3か月児→1歳6か月児 (平成18年4月～20年9月健診)	子を虐待していると感じるようになった人の特徴 3か月児→1歳6か月児 (平成18年4月～20年9月健診)	「自分は子どもを虐待しているのではないかと 思うことはありませんか」に対する回答の変化																							
<p>個別データの縦断分析による検討から</p> <p>3か月児健診時の問診項目</p> <p>【望ましくない行動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心臓器生法をあまり知らない (p<0.01) ・深い傷をあまりしていない (p=0.026) ・地域の人で子どもに道で声をかけてくれる人が少ない (p=0.046) <p>【望ましくない気持ち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児があまり好きでない (p=0.069) <p>【望ましい行動】</p> <p>なし</p>	<p>個別データの縦断分析による検討から</p> <p>3歳児健診時の問診項目</p> <p>【望ましくない気持ち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児があまり好きでない (p<0.01) ・自分はこの子の育児に向いていないと思う (p<0.01) <p>【望ましくない行動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒に外に出ることが少ない (p<0.01) ・食事の時間はだいたい決まっていない (p<0.01) ・保護者が食の仕上げ磨きをあまりしていない (p<0.01) <p>【望ましい行動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の育児サークル等に参加している (p=0.067) 	<p>個別データの縦断分析による検討から (平成18年4月～20年9月健診) n = 178名</p> <table border="1"> <tr> <th>3か月児健診</th> <th>1歳6か月児健診</th> <th>この期間の回答</th> </tr> <tr> <td>いいえ 151名</td> <td>いいえ 136名</td> <td rowspan="2">いいえ 15名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>はい 1名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>無回答 1名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>はい 20名</td> <td>いいえ 9名</td> <td>はい 17名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>はい 17名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>無回答 1名</td> <td>いいえ 0名</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>はい 1名</td> <td></td> </tr> </table>	3か月児健診	1歳6か月児健診	この期間の回答	いいえ 151名	いいえ 136名	いいえ 15名		はい 1名		無回答 1名		はい 20名	いいえ 9名	はい 17名		はい 17名		無回答 1名	いいえ 0名			はい 1名	
3か月児健診	1歳6か月児健診	この期間の回答																							
いいえ 151名	いいえ 136名	いいえ 15名																							
	はい 1名																								
	無回答 1名																								
はい 20名	いいえ 9名	はい 17名																							
	はい 17名																								
無回答 1名	いいえ 0名																								
	はい 1名																								

子を虐待していると感じるようになった人の特徴 1歳6か月児→3歳児 (平成18年4月～20年9月健診)	子を虐待していると感じるようになった人の特徴 1歳6か月児→3歳児 (平成18年4月～20年9月健診)	まとめ
<p>個別データの縦断分析による検討から</p> <p>1歳6か月児健診時の問診項目</p> <p>【望ましくない行動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒に外に出ることが少ない (p<0.01) ・母親に健康上の問題がある (p<0.01) <p>【望ましくない気持ち】</p> <p>なし</p> <p>【望ましい行動】</p> <p>なし</p>	<p>個別データの縦断分析による検討から</p> <p>3歳児健診時の問診項目</p> <p>【望ましくない気持ち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児があまり好きでない (p<0.01) ・育児が楽しくない (p<0.01) ・自分はこの子の育児に向いていないと思う (p<0.01) <p>【望ましくない行動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒に外に出ることが少ない (p<0.01) ・公園に子どもを遊びに連れて行かない (p<0.01) ・母乳を飲んでいない (p<0.01) ・毎、父ともよく遊ばない (p<0.01) ・お祭りに行かない (p<0.01) <p>【望ましい行動】</p> <p>なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問診項目の意義づけができた ・問診項目が保護者に与える影響を感じた (【虐待や虐待の危険性を知らせることによって軽減する場であることがわかった】) ・虐待(虐待していると思うことがある)項目への回答は親子の社会的健康度が影響することがわかった ・健診スタッフで問診項目を協議し指導内容について検討できた ・虐待関連項目をフォローする必要がある

<考察・まとめ>

4自治体の担当者から、乳幼児健診等のデータの電子化の状況やその利活用の状況について、大変わかりやすく、素晴らしい発表が行われた。今後、他の自治体においても母子保健情

報の電子化やその利活用が推進されるよう、研究班において開発している母子保健情報モニタリングシステムやツールのさらなる開発及び普及を進めていくことが重要である。

山梨県 K 保健所管内における母子保健情報モニタリングシステムの構築 および乳幼児健診データを集積・利活用するためのツールの開発

田中 太一郎（山梨大学医学部 社会医学講座）
岡本 まさ子（山梨県峡東保健福祉事務所）
武藤 哲也（山梨県中北保健福祉事務所峡北支所）
鈴木 孝太（山梨大学医学部 社会医学講座）
山崎 嘉久（あいち小児保健医療総合センター）
仲宗根 正（沖縄県福祉保健部）
松浦 賢長（福岡県立大学看護学部 地域・国際看護学講座）
尾島 俊之（浜松医科大学医学部 健康社会医学講座）
山縣 然太郎（山梨大学医学部 社会医学講座）

平成 17 年度に取りまとめられた「健やか親子 21」の中間評価報告書において、「母子保健情報の収集と利活用のためのシステムの構築」が今後の課題としてあげられている。本研究班では「母子保健情報の収集・利活用システム」の一つのモデルとして、市町村で得られた乳幼児健診データを電子化して管理し、保健所にて管内市町村分の電子化データをまとめて集計・解析し、その結果を市町村、さらには住民へと還元するというものを提示している。平成 20 年度は、「①母子保健情報モニタリングシステムの一つのモデルとして本研究班が提示しているモデルシステムを山梨県の一保健所及びその管内市町村で平成 19 年度に引き続いて運用し、実効性の検証を行う」「②平成 17 年度から開発してきた乳幼児健診データベースソフト『母子保健情報システム』をさらに多くの市町村で実際に使用し、機能や操作性の向上を図る」の 2 点を研究目的として、研究を実施した。

山梨県内の一保健所支所管内でのモデルシステムの運用においては、市町村で乳幼児健診のデータを電子化し、保健所に集積・集計し、市町村に還元するという流れを実際に行うことができた。しかし、乳幼児健診データの電子化を市町村独自で行うことには了解を得にくいこと、あるいは、保健所が各市町村から集積したデータを集計・分析するには、現状では大学等からのサポートが必要な場合も多いこと、等が明らかになった。これらの課題について、今後さらなる検討を行う必要がある。

A. 研究目的

「健やか親子 21」の中間評価が平成 17 年度に実施され、中間評価報告書がとりまとめられている。その中で、「母子保健情報の収集と利活用のためのシステムの構築」が今後の課題としてあげられている。母子保健施策に必要な科

学的根拠を得て、適切な事業の企画・実行・評価を行うためには、母子保健情報の収集・分析・活用の体制を整えたモニタリングシステムを構築することが必要である。市区町村では乳幼児健診を通じて多くのデータが得られている。しかし、集積されたデータの集計・分析や

利活用は十分に行われておらず、また都道府県レベル・国レベルでの十分なモニタリングシステムも構築されていない。

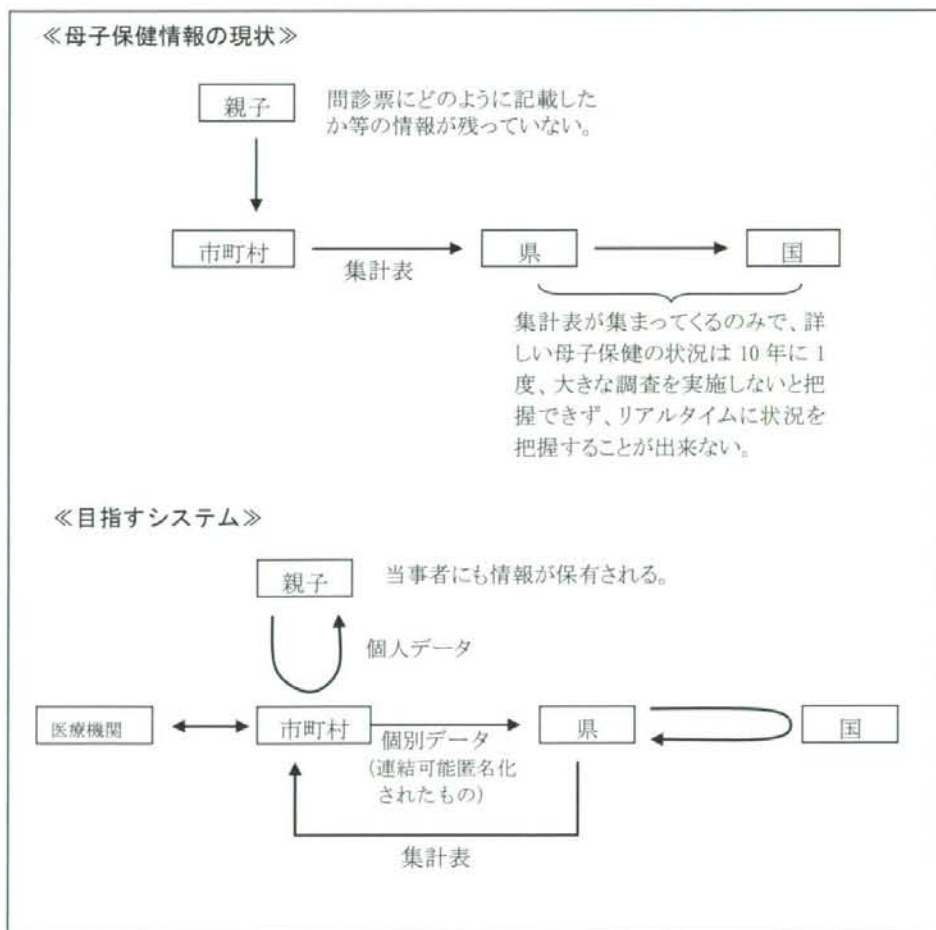
モニタリングシステムのモデルの一つとして、市町村で得られた乳幼児健診データを電子化して管理し、保健所にて管内市町村分の電子化データをまとめて集計・解析し、その結果を市町村、さらには住民へと還元するというものがある。母子保健情報の現状と本研究班において目指すシステムを<図 1>に示す。本研究班では平成 17 年度からこのモデルシステムをいくつかの地域で運用し、実効性の検証を行って

きている。

平成 20 年度は

- ① 母子保健情報モニタリングシステムの一つのモデルとして本研究班が提示しているモデルシステムを山梨県の一保健所及びその管内市町村で平成 19 年度に引き続いて運用し、実効性の検証を行う
 - ② 平成 17 年度から開発してきた乳幼児健診データベースソフト「母子保健情報システム」をさらに多くの市町村で実際に使用し、機能や操作性の向上を図る
- の 2 点を研究目的として、研究を実施した。

図 1. 母子保健情報の現状と目指すシステム



B. 研究方法

母子保健情報モニタリングシステムの一つのモデルシステムとして本研究班が提示してシステムの構築・運用および実効性の検証を、山梨県のK保健所支所およびその管内3市(A市、B市、C市)において行った。なお、3市の人口はA市：約7万3千人、B市：約3万2千人、C市：約5万人である。

平成19年度に、3市それぞれについて、妊娠届けや乳幼児健診を通して得られる情報内容の確認およびその電子化の状況、さらに活用状況の現状について調査を実施した。その結果を<表1>に示す。3市ではいずれもすでに乳幼児健診データ等の電算化システムが導入されていたが、入力されている項目数は少なく、年度毎に県へ報告する必要がある項目が主であった。また、特に問診票については電子化されている項目が少なかった。そのため、3市の間で問診票に同内容の設定があっても、電子化されていないため、比較ができないという状況が明らかとなった。そこで、平成20年度は、各市の乳幼児健診を平成19年度に受診した児について、妊娠届出時および乳幼児健診時のデータを研究班で開発した簡易データベースソ

フトを用いてコンピュータに入力し、データの電子化を行った。電子化されたデータについては各市において匿名化し、そのデータをK保健所支所に集積した。保健所では各市から集積されたデータを保健師が研究班の研究者と協力して分析し、その後、各市へ分析結果の還元を行った。

各市の乳幼児健診のデータを電子化する際、研究班で開発した簡易データベースソフト「母子保健情報システム」を用いたが、このデータベースソフトの機能や操作性の向上のための改修作業も平成20年度に情報システム開発業者とともに実施した。なお、「母子保健情報システム」は、妊娠届出時や乳幼児健診時のデータを入力できる以外に、データ集計機能などが付加されたデータベースシステムであり、情報Microsoft Accessを用いて作成されている。

(倫理面への配慮)

各市の電子化された乳幼児健診データについては、個人情報を外し匿名化したものを保健所に集積した。また、今回の取り組みについては保健所が主体となり、保健所から各市へ依頼した事業として実施した。

<表1> 各市の電算化システム導入状況

	A市	B市	C市
乳幼児健診データの電算化システム	○ (平成15年～)	○ (平成18年～)	○ (平成16年～)
入力内容	身体計測：○ 問診票：×	身体計測：○ 問診票：ほぼ×	身体計測：○ 問診票：△(約半分)

C. 研究結果

3市で平成19年度に乳幼児健診を受診した児について、簡易データベースソフト「母子保健情報システム」を用いて、妊娠届出時および

乳幼児健診時のデータの電子化を平成20年3月から8月にかけて行った。入力作業は研究班で雇用した者が各市において行った。入力作業に要した時間は市によって、また健診時期によ